

# CLA journal



■特集／2011年ランドスケープコンサルタンツ協会賞（CLA賞）

社団法人 ランドスケープコンサルタンツ協会

# 社団法人 ランドスケープコンサルタンツ協会

## 基本理念

我々の使命は、新たな環境認識のもとに、人と自然との関係を科学的、芸術的に把握し、環境と調和・融合した新しい秩序づくりに積極的に挑戦することによって、安全で豊かな環境の創出、すなわち、「みどりの環境文化」の形成に寄与することです。

### 1. ランドスケープアーキテクチャーの専門家集団

我々は、日本におけるランドスケープアーキテクチャーの思想と技術を継承し、発展させるために組織された専門家集団です。

### 2. 新しい技術の開発と研鑽

我々は、来たるべき21世紀の社会に対する責任を十分認識し、技術の高度化と多様化に対応した新しい技術の開発と研鑽を推進し、技術競争の時代に対応します。

### 3. 社会的信頼の獲得

我々は、社会的倫理観のもとに、公正な技術競争を通し、内外の要請にも応えられる自立した職能として社会的信頼を獲得すべく行動します。

### 4. 開かれた技術団体

我々は、内外の関連技術者との交流を通して、協調関係を積極的に推進し、多様な価値観を内包する開かれた技術団体として広く展開します。

### 5. 魅力ある創造的職能

我々は、経営体質の向上と安定を図ることによって、魅力ある創造的職能として広く社会から信頼されることをめざします。

平成7年5月  
「新しい環境文化の創造—造園コンサルタントビジョン—」より

## 目 次

### 特集：2011年ランドスケープコンサルタンツ協会賞（CLA 賞）

#### ■優秀賞

##### 【設計部門】

一号館広場（丸の内パークビルディング・三菱一号館） ————— 2

##### 【調査・計画部門】

里地里山自然資源管理モデル検討調査

—SATOYAMA イニシアティブの発信にむけて— ————— 4

パークシティ浜田山における緑地環境保全 ————— 6

##### 【マネジメント部門】

海浜砂丘の植生マネジメント

—ダイキン工業グローバル研修所「ダイキンアレス青谷」を事例として——— 8

#### ■特別賞

##### 【設計部門】

第27回全国都市緑化ならフェア「やまと花ごよみ2010」 ————— 10

#### ■奨励賞

##### 【設計部門】

広尾ガーデンフォレスト1・2期 ランドスケープ計画 ————— 12

石堀と武家門のある小広場の設計

—城下町の町割が残る歴史的町なみにおける小広場の設計— ————— 13

■CLA 賞の趣旨と募集・選考のあらまし ————— 14

■受賞技術者プロフィール ————— 15

### 支部活動報告

北海道支部／造園関連団体といっしょに活動しています ————— 17

関東支部／ビジョンセミナー開催 ほか ————— 18

中部支部／「名古屋開府400年祭」を記念した講演会を実施 ————— 19

関西支部／「すこやか公園」のアピール ほか ————— 20

九州支部／九州ランドスケープセミナー・福博花しるべガーデニングショー ————— 20

会員名簿／21

お知らせ／23

書籍案内／24

編集後記／24

表紙の Photo Story

2011年 CLA 賞優秀賞を受賞した丸の内パークビルディング・三菱一号館。クライアントからのリクエストである「丸の内ですらに憩える場所を創出すること」に対して、ランドスケープ、建築、設備が一体となり、中庭という形で「本当に憩える場所」を実現した作品。さまざまな植物や水景施設、そしてアートなどの組合せが巧妙。詳細は作品掲載ページをご参照ください。

# 優秀賞 賞 CLA 2011

## 一号館広場（丸の内パークビルディング・三菱一号館）

株式会社三菱地所設計 藤江哲也・植田直樹・松榮宏幸・渡辺 修

丸の内パークビルディング・三菱一号館そして一号館広場は多くの来街者とオフィスワーカーで賑わう「丸の内仲通り(以下、仲通り)」の中ほどに位置する。東京の業務中心地区を縦断する仲通りは、1998年から三菱地所が取り組んでいる「丸の内再構築」により、銀行やオフィスビル中心の構成からブランド店を始め多彩な店舗が並び、歩行者を主役とする快適なストリートに生まれ変わった。一号館広場はこの仲通りが育んできた線的な空間の連続性に、面的な拠点空間となる中庭形式の憩いの広場を提供している。また、仲通りと一号館広場を結ぶアネックス棟では屋上緑化を施し、緑のネットワークを補完している。

本プロジェクトの最大の特徴は建築、設備、ランドスケープが一体となって商業・オフィスの集積地である東京丸の内の人工地盤上に、中庭という形態で緑豊かな憩いの空間を創出している点にある。

この憩いの空間は、今まで丸の内に無かったアートやオープンカフェに囲まれた「憩いの庭」であり、復元された三菱一号館の設計者ジョサイア・コンドルが愛したバラを始め、ラベンダー、シラカバ、ノルウェーカエデなど、レンガ組積造と相性のよい植物の色彩や水景が奏でる水の音、煌めきが都心の喧騒を忘れさせる。また、広場内の通路、噴水広場、ピロティー下のレスト空間、オープンカフェは、緑の中のヒューマ



多くの人で賑わう一号館広場

## 作品概要

作品名：一号館広場（丸の内パークビルディング・三菱一号館）  
 所在地：東京都千代田区丸の内2丁目6番1号，2号  
 発注：三菱地所株式会社  
 設計：株式会社三菱地所設計  
 設計協力：株式会社光和創芸，財団法人彫刻の森美術館，dpa lightning consultants  
 監理：株式会社三菱地所設計  
 施工：竹中工務店（建築総括），小岩井農牧（植栽），東光電気（電気設備），斎久工業（衛生設備）  
 設計期間：2004年12月～2008年9月  
 施工期間：2007年2月～2009年4月  
 規模：敷地面積 11,991.79 m<sup>2</sup> 建築面積 8,280.04 m<sup>2</sup>  
 主要施設：水景施設，パーゴラ，ドライミスト，保水性舗装，PLANTED COLAM（丸柱壁面緑化）など

## 作品評

この作品は、丸の内仲通りの中心に位置する三菱一号館の復元に伴う、人工地盤上に展開された外構の設計である。

この空間の設計にあたっては、委託者からの要請である「丸の内でも本当に憩える場所を創出すること」に対して、建築、設備、ランドスケープの担当者が一体となって中庭という形で「本当に憩える場所」の実現を図っている。

この憩いの空間を創出するにあたっては、商業施設との関係を大切にしながらヒューマンスケールで様々なシーンに対応できる空間を用意し、それらを連続させることで一体的な空間を構成している。

これらの様々な空間構成や表情は、季節の彩り豊かな様々な植物、音と形でリズムを与える水系施設、そしてアートなどを巧みに組み合わせることで生み出されており、その点が高く評価された。また、「訪れた人々がそれぞれの思いに合った居場所」のつくり方の巧妙さも評価された。さらには、広場の気温を低減するなど、環境への配慮が定量化できる工夫も同時に行っている点も評価されたことから、優秀賞とした。

ンスケールが心地良く、昼間と異なる表情を見せるライティング、季節のイベント演出など、さまざまなシーンの展開が空間に魅力を与えている。この場所を訪れた人々それぞれに合った居場所があり、そこには必ず緑に包まれたベンチが用意されている。

本プロジェクトでは、全体として環境配慮について積極的に取り組んでいる。ランドスケープでは、ヒー

トアイランドの軽減やカーボンマイナスへの貢献として屋上や壁面緑化、保水性舗装、ドライミストなど、さまざまな新しい技術を導入。貯留した雨水利用により水資源を有効利用している給水型保水性舗装では、灌水することで晴天時が続いても蒸発散効果が作用し、アスファルトと比べ表面温度が10～20℃も低減する効果を確認している。



みどりが寄り添う憩いの空間



環境貢献と清涼感を与えるドライミスト



みどりの中で語り合えるベンチ



賑わいが広場へと滲み出すオープンカフェ



夜間の演出



イベント期間中の演出



# 里地里山自然資源管理モデル検討調査 —SATOYAMA イニシアティブの発信にむけて—

株式会社プレック研究所 松井孝子・河島泰斗・笠原岳洋

日本には人間が自然資源を持続可能な方法で利用することで生物多様性も同時に育んできた「里山」という景観があります。この里山概念を取り入れ、自然資源の持続可能な利用・管理の取組みを世界に広げていくため、日本は生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）にて「SATOYAMA イニシアティブ（以下、SI と表記）」を発信し、これを含む「持続可能な利用に関する決定」が決議されました（2010年10月・名古屋市にて）。

SI を COP10 にて発信し、参加者を募るためには、SI

が推進する取組みは世界各地で適用可能性があり、生物多様性にとっても、取組みを実施する人自身の生活にとっても有効であることを世界各国に理解してもらう必要がありました。さらに、有効性が理解されたとしても、取組みの始め方が分からないという場合に参考となるような技術的な指針を整理する必要がありました。また、取組みを行う人には農林業業者から、行政、NPO、国際組織など様々な立場があることから、各主体が果たせる役割を明確にする必要がありました。



**作品概要**

作品名：里地里山自然資源管理モデル検討調査—SATOYAMA  
イニシアティブの発信にむけて—  
発注：環境省自然環境局自然環境計画課  
事業目的：SATOYAMA イニシアティブの国内外での理解と参加を目指した、自然資源の持続可能な利用・管理の具体的な指針・手引きとして提示すべき技術的な要素を抽出・整理する。  
協働者等：国連大学(国際会議対応等)、(財)自然環境研究センター(海外現地調査)  
事業期間：平成21年9月～平成22年3月  
事業規模：世界各地の二次的自然域

**作品評**

この作品は2010年に開催された生物多様性条約第10回締約国会議において、議長国のわが国が里山の考え方を取り入れた「SATOYAMA イニシアティブ」を発信するために必要な情報分析と資料作成を目的として、自然資源の持続可能な利用・管理の取組みにおける世界各地の二次的自然の事例を分析し、手法例集としてまとめたものである。  
国内外の膨大な事例を分析して、持続可能な利用・管理に有効と考えられるポイントの抽出から、他の地域への適用が可能である普遍性を有する手法を導き、実施主体別に手法を分類している点や、社会的・経済的な持続性を含めた総合的な視点での分析などは、実情の異なる各国において理解されやすいアウトプットにまとめられている。  
現段階で各国の多くの団体が国際 SATOYAMA パートナーシップに参加表明をしており、今後の展開が期待されるプロジェクトであるところから、本作品の成果がその動機付けを担ったことは賞賛に値するとして、審査員一同から高い評価を得た。

まず、SIの有効性を示すために、SIの考え方に合致する取組みをすでに行っている事例を調査し、SIの考え方に立って事例集をまとめました。事例集の作成にあたっては、できる限り多様な気候帯の事例、途上国の事例、社会・経済的持続性を有する事例といった点に留意しました。この事例群から、自然資源の持続的利用・管理において有効だと考えられ、かつ、他の地域への適用が可能（普遍性を有する）と考えられるポ

イントを抽出・整理することで取組みの技術的指針となるような“手法”を一般化しました。これにより、自然資源を持続的に利用・管理する際に、どの立場の人が何をすることが効果的なのか、ということが明らかになりました。“事例”と“手法”のとりまとめによりSIは具体的な形となり、COP10における決議へと繋がりました。

手法例：「複層的・複合的空間利用の導入による機能的な資源循環システムの確保に関する手法」（概要）		
★手法の内容及び適用可能性		
	垂直方向の複層的な土地利用	水平方向の複合的な土地利用
手法の内容	・樹木を植栽又は樹木を残し、その間で家畜の飼育や農作物の栽培を行う。一つの空間を複層的に利用する土地利用手法。 ・空間を高密度で利用でき、上層の植物が下層部に栄養を供給する等、複層的な物質循環を構築し、総合的な生産性を高める。	・農地、密林地、草地等の異なる土地利用のモザイク状の配置や複数の動物種・成長段階の組み合わせにより、一つの空間を水平方向に複層的に利用する土地利用手法。 ・森林の遊葉等を農地にて利用する等の土地利用間の関係性を構築し、総合的な生産性を高める。
適用範囲	・森林が成立する地域に適用可能性があるが、自然条件により階層の複雑さ、構成する植物、農作物、家畜等は大きく異なる。 ・植物生産量が大きい熱帯地域にくらべ、温帯・乾燥帯等では比較的単純な階層構成となる。	・幅広い地域で適用可能性があるが、気象や地形等の自然条件によって土地利用及び動物種の内容や水平構成の複雑さが大きく異なる
主体	・農林業の経営者	・農林業の経営者
★事例から得られた自然資源の持続可能な管理・利用に關して期待される効用		
自然資源の持続可能な利用・管理に関する効用（社会経済的効用）		二次的自然の健全性に関する効用（生態系及び生物多様性に関する効用）
空間の高密度利用・最適配置 生物種や成長段階の多様化 大面積での資源収奪の停止	▶ 農林畜産物の生産量の向上・安定化 ▶ 複数の供給サービスの並行利用が可能 ▶ 土壌流出抑制等の調整サービス安定化	▶ 過剰利用又は利用不足の緩和 ▶ 農地・森林等の二次的自然の健全性 ▶ 多様な生態学的ニッチ・ハビタット形成
★SATOYAMAイニシアティブの「5つの視点」を踏まえた計画のポイント及び作業例		
5つの視点	計画のポイント	作業項目
環境容量・自然復元力の範囲内での利用	・自然資源の利用・管理に関する現状及び課題を踏まえ、自然資源の利用可能量及び生態系サービスの向上を図る連携事業のための目標を設定することが必要である。	・現状及び課題の整理 ・土地利用の複層化・複合化の目標の設定
自然資源の循環利用	・地域の自然条件や社会経済的条件を踏まえ、機能的な資源循環を構築できる作物や家畜の構成を設定することが必要である。	・作物・家畜の構成の設定
地域の伝統・文化の評価	・伝統的な複層的・複合的土地利用と新たな計画を照らし合わせ、地域の自然条件との調和が取れているかどうかを確認することが必要である。 ・現代の科学技術を融合させることにより、現代の社会経済的条件との調和を図ることが必要である。	・伝統的手法の再評価と計画への反映
多様な主体の参加と協働	・必要に応じて、公的主体や科学者による支援体制や、地域ぐるみの協力体制を構築することが効果的である。	・支援・協力体制の構築
地域社会・経済への貢献	・持続可能な農林水産業の市場形成に向けた社会経済的支援が必要である。 ・的確かつ広範な普及を図るために組織的な教育、人材育成及び能力開発を行うことが必要である。	・社会経済的支援の計画 ・教育・人材育成及び能力開発の計画



# パークシティ浜田山における緑地環境保全

株式会社オオバ

土川 豊, 戸邊真人, 忠岡俊彦(現, 三井不動産株), 湯浅敦司, 望月啓史, 本田美保, 萩野一彦

パークシティ浜田山(以下、PC浜田山)は、三井グループのグラウンド跡地(以下、敷地)における住宅地開発(事業手法は土地区画整理)です。計画地全体は、杉並区における神田川崖線を中心に広がる自然環境の中でも重要な緑地として評価されるものであり、PC浜田山における緑地環境保全は、この重要な緑地の保全と住宅地開発の両立を目的とした一連の調査・計画業務です。

業務は多岐にわたり、コンセプト立案、マスタープラン(基本構想)、敷地計画、自然環境調査、公園設計、植栽設計及び管理計画、規制誘導方策(用途地域、地区計画、建築・緑地協定)、施工中の設計監理までを「保全」理念の下に一貫して行ったものです。

PC浜田山は、2008年12月に土地区画整理事業の終了認可を受け、その後順次集合住宅の販売が進められています。また、西側の樹林地及び南側崖線部は2010年4月より、三井の森公園として開園しています。

なお、既存の緑をまとめて保存した点が高く評価さ

れ、2010年度グッドデザイン賞を受賞しています。

## □土地の記憶の継承と緑の保全

70年の間、豊かな樹木を育ててきた敷地には、庭園のようなグラウンドを目指した先人が大切に育ててきた銘木の数々が点在し、また、敷地西側には豊かな樹林地が、南側には崖線の緑が存在していました。これらの緑はかけがえのない財産であるため極力保全した上で、次世代に引き継いでいくことが望まれていました。

そのため、建物配棟にあたっては既存樹木の位置を踏まえて計画することとし、西側樹林地及び南側崖線を公園とした上で、地区計画では地区施設として歩道状空地を定め、敷地外周部等における、並木の保全空間及び歩行者通路として担保しました。また、自然環境調査に基づく植栽計画や移植の実施、モニタリングに基づく植栽管理などを行い、質的な担保も行いました。

こうして整備された緑は地域に開放され、隣接する区立柏の宮公園の緑との相乗効果もあり、杉並区を目指す「みどりと水の空間軸」の骨格を担うに足る量と





作品概要

作品名：パークシティ浜田山  
 対象地：東京都杉並区  
 発注：三井不動産レジデンシャル株式会社  
 事業目的：PC 浜田山における緑地環境保全は、この重要な緑地の保全と住宅地開発の両立を目的とした一連の調査・計画業務。  
 事業体制：事業主体(区画整理施行者)：三井不動産レジデンシャル株式会社  
 主たる協議先行政：杉並区  
 コンサルタント(基本構想、敷地計画、公園設計・監理、規制誘導方策)：株式会社オオバ  
 協働者等：SLA スタジオランドジャパン株式会社(現：株式会社L.P.D)：(マスタープラン助言・公園設計支援)  
 株式会社愛植物設計事務所：(自然環境調査・解析、植栽設計・監理)  
 事業期間：2004年1月～2008年5月  
 事業規模：約8.4 ha

作品評

この作品は、三井グループのグラウンド跡地における住宅地開発プロジェクトで、計画地が杉並区における自然環境の中でも重要な緑地として評価されており、保全と住宅地開発の両立を目的に計画されたものである。  
 計画においては、計画地が有する緑の広域的な位置づけや事業者の計画地に対する思い、計画地の特徴など、多岐にわたる条件に配慮し検討が進められている。また、現況のみどりに対する自然環境調査を行うなど、緑地を保全するにあたっての十分な調査が行われたものとなっている。  
 このような検討プロセスを経た結果、「保全型土地利用計画」が策定され、用途地域の変更によって敷地面積の約4割に及びみどりを確保したことが評価された。  
 なお、みどりの保全にあたっては、自然環境調査に基づく植栽設計と移植やモニタリングによる管理計画などにより、緑地環境の質的担保を行ったことも高く評価され、さらには「保全型土地利用計画」を策定するために、ランドスケープアーキテクトが都市計画や事業計画を内化し、マスタープランや敷地計画、規制誘導方策等を主体的に行なった点が高く評価された。

質が保全されることとなりました。

緑地環境保全と事業性能の両立

樹林地及び崖線の保全と住宅地開発としての事業性能の両立を実現するため、用途地域の変更によって、保全する樹林地相当分の容積(約17,000 m<sup>2</sup>)を計画地宅地において増進させる提案を行いました。

用途地域の変更の結果、住宅地開発としての事業性能(計画戸数や総床面積)を確保しつつ、公園と宅地内緑地によって区域面積約8.4 haのうち、約3.6 ha(敷地に対し約4割以上)の緑を確保しています。

ランドスケープアーキテクトによる「保全型土地利用計画」

基本構想マスタープランは、緑地環境保全に関する課題解決とコンセプトの実現を目指し、西側樹林地、

南側崖線、外周並木、桜並木を保全した案です。

基本構想マスタープランの実現にあたり、ランドスケープアーキテクトが都市計画や事業計画を内化し、マスタープランや敷地計画、規制誘導方策等を主体的に行なったことが、「保全型土地利用計画」の実現に大きく貢献したと考えられます。



基本構想マスタープラン



## 海浜砂丘の植生マネジメント —ダイキン工業グローバル研修所「ダイキンアレス青谷」を事例として

株式会社愛植物設計事務所

趙 賢一・佐藤 力・山野秀規・森野敏彰・伊藤麻子・中井理佐子・山本紀久・大塚生美

### □ 立地の特性

海浜砂丘は全国的にも急速に失われ、そこに成立する砂浜の自然植生も衰退の一途をたどっており、海浜植物を伴う砂丘環境は極めて保全要請の高いエリアとなっている。計画地は小規模な海岸砂丘地であるが、地域特有の典型的な自然植生や砂丘後背部の代償植生が見られる場所である。

### □ 植生マネジメントの計画

立地特性を踏まえ、海岸の砂浜特有の飛砂や潮風の強弱の変化が、狭い範囲で起こる厳しい立地特性をできる限り仔細に把握し、保安林としての規制への適合や研修所施設としての利用条件などを踏まえ、代償度の評価により、植生の保全や回復を中心に行うエリ

アから植栽により創出を中心に行うエリアまで段階的なゾーニング手法を導入した。

### □ 植生マネジメントの手法

海浜砂丘の厳しい環境条件の中で、自然植生や防風林の回復、建物周辺の修景植栽などデリケートで多様な植生や植栽を適切に保全・育成し、目標景観に近づけていくうえで想定できないことが発生し困難が伴うことが予測された。このため、「順応的管理システム」により、維持管理においてもモニタリング調査を実施し、目標とする植生の状態を常にチェックし、その成果を維持管理に反映させている。それらを円滑に行うために発注者、学識経験者、管理作業者と我々が一同に会する協働巡回を年に4回を目安に実施している。



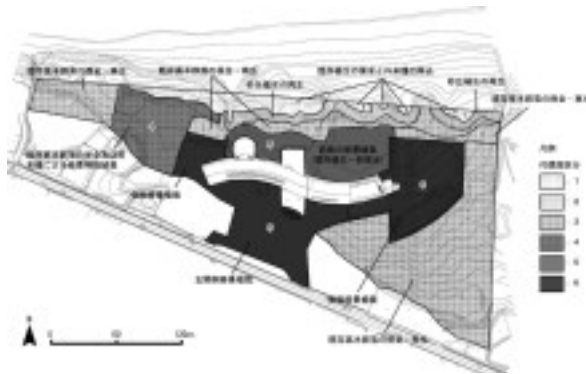
東側から見た計画地の全景

作品概要

作品名：砂丘の植生マネジメント  
 —ダイキン工業グローバル研修所「ダイキンアレス青谷」を事例として  
 所在地：鳥取県鳥取市青谷井出地内  
 発注：ダイキン工業株式会社  
 事業目的：海岸砂丘地の保安林内にある砂丘の自然植生や防風林の植生を保全・回復・創出・管理し研修施設と調和した環境や景観を形成するために、順応的管理システムにより整備し、研修や保養及びイベントの場を提供する  
 調査設計監理：株式会社愛植物設計事務所  
 監修：鳥取大学 日置佳之教授  
 施工管理：内山緑地建設株式会社  
 事業期間：調査・設計・施工／2007年6月～2008年5月  
 順応的管理／2008年5月～現在  
 事業規模：5.4 ha

作品評

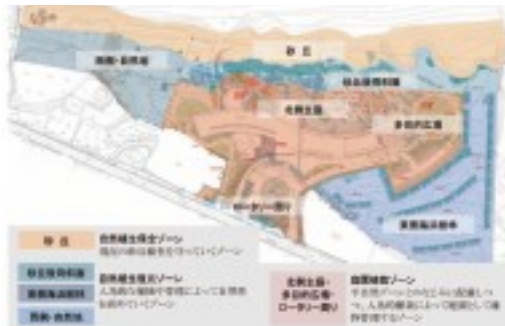
この作品は、海岸砂丘という特殊環境にある自然植生や防風林の植生を保全・回復・創出・管理し、研修施設と調和した環境や景観を形成するために、調査・計画・設計・管理・モニタリングのPDCAサークルを有効に機能させるためのマネジメントシステム（順応的管理システム）の構築を行ったものである。  
 植生の回復・復元は苗木や幼木から育成管理が必要であり、事業者・設計者・管理者の三者が確認しながらこれを進めていくマネジメントシステムを構築し、新しい試みとして取り組んだ先駆性が高く評価された。また、この管理システムは、特殊環境におけるモデルにもなりうる点においても高い評価を得た。  
 一方、このマネジメントシステムは試行過程であり、最終結果は出ていない現時点において、その評価は困難であるという指摘もあったが、10年、20年先の結果を見るのではあまりにも時間が過ぎてしまうとの判断により、試行段階においても順調に進んでいること、今後の成果を期待するという意味を含めて優秀賞とした。



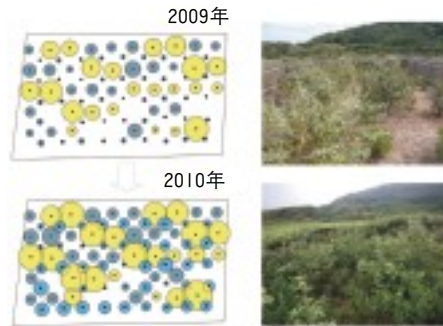
代償度区分

代償度区分	初期の整備内容	管理内容
高い	既存植生の保全と外周植栽の創出	基本的には無管理（外来種の除去のみ実施）
	砂丘植生の再生	現状の自然植生の保全に加え一部砂丘植生を復元し安定するまで継続管理を実施
	既存防風林の保全・再生 既存防風林の保全・再生	防風林の生育や草地を維持するために継続管理を実施
	既存防風林の保全及び改良 改良による植生回復促進	定期的な草刈りに加え自然種の植栽結果とその育成管理を実施
	防風林の植栽結果（既存防風林一部保全）	既存防風林の定期的な草刈りや植栽結果の育成管理を実施
低い	防風林の整備	必要に応じて防風林の管理および定期的な管理を実施

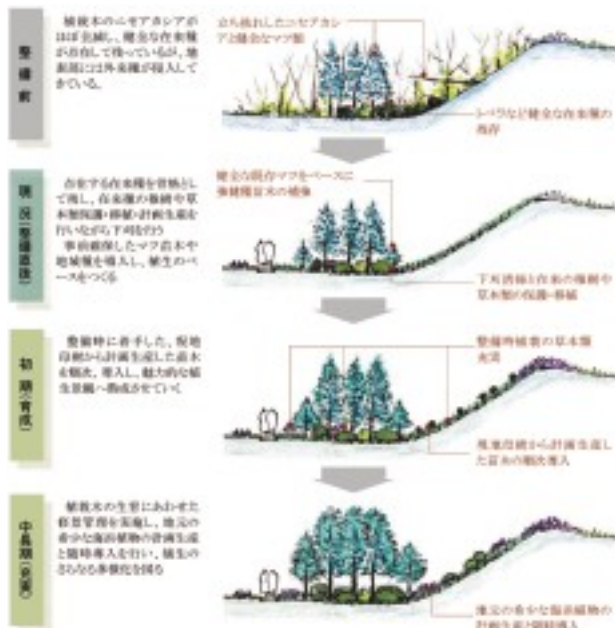
代償度区分ごとの初期整備内容と植生管理



植生・植栽の計画（ゾーニング）



海浜樹林再生地の樹冠生長の変化（1年間）



植生・植栽の計画と管理の方針（砂丘後背地）



整備前の状況



竣工時の状況



左／植生モニタリング、右／協働巡回

# 特別賞 CLA 2010

## 第27回全国都市緑化ならフェア 「やまと花ごよみ2010」

株式会社空間創研 後藤逸成・泉 崇・駒井 修・宇戸睦雄・吉田昌弘

2010年の都市緑化フェアは、平城遷都1300年の節目にあたる平成22年秋に奈良県で開催され、既存の県営馬見丘陵公園をメイン会場とし、平城宮跡・藤原宮跡等をテーマ会場とした。

### □新しいフェアを目指して

奈良特有の資源を活かし、花のみならず既存樹木や景観とも調和し、風景に馴染む多彩で魅力的な会場構成、テーマ性をもった多彩なデザイン、日本の風土がもつ季節の移ろいを表現した修景など、量より質を高める効果的な演出によりこれまでの緑化フェアとは一線を画す、きめ細やかな景観演出を会場全域に展開した。

### □奈良を活かしたゾーン展開

メイン会場は、地理的特性等から5つのゾーンで構成した。まず、「大和青垣」を背景とした奈良の大きな景色と出展展開によって花と緑と人が集い繋がる場となる『集いの丘』、奈良を代表する花であるダリアによる象徴的な空間を創造し、疎林景観の中に多様な出展展開を行い、花を通じた県民との協働・交流によって次代の奈良へ繋ぐきっかけづくりの場となる大花壇を展開した『花の都』、さらに、来場者をもてなす花修景、飲食や物販等で賑わうエントランス空間である『賑わいの広場』は、来場者と奈良の花と緑が最初に対面する空間となり、そして『未来の華』では、会場修景と出展参加の草花と緑を競演させ、草花のもつ多様な



約1300年前に伝わったとされる「青海波」文様をデザインモチーフとした大花壇



墳丘を背景に、自然に咲く花のように粗密をつけて配植した古の風景庭園

作品概要

作品名：第27回全国都市緑化ならフェア  
「やまと花ごよみ2010」  
所在地：奈良県北葛城郡広陵町・河合町  
発注：奈良県高田土木事務所  
第27回全国都市緑化ならフェア実行委員会  
設計：株式会社空間創研  
監理：第27回全国都市緑化ならフェア実行委員会  
施工：植丈造園，株式会社山口造園土木，植清造園，株式会社三和，吉川造園土木，株式会社大和日昇緑化，株式会社植田造園土木  
設計期間：平成20年5月～平成22年12月（設計管理期間を含む）  
施工期間：平成22年3月～9月（維持管理期間を除く）  
規模：約16.0ha  
主要施設：主催者による展示庭園，会場修景花壇及びフェアに関わる諸施設・建物等

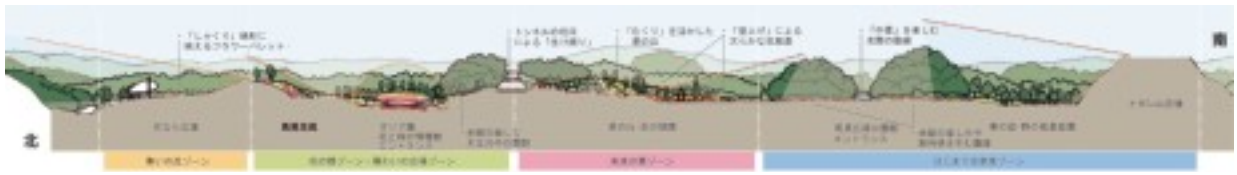
作品評

この作品は平成22年9月18日から11月14日までの58日間、奈良県で開催された第27回全国都市緑化ならフェアの会場に関する計画・設計及び監理を一貫して行った作品である。  
既存の県営馬見丘陵公園をメイン会場とし、周辺を取り込み、一望する景観，既存公園内の起伏を活かした景観など立地条件・景観を活かした会場づくりは高く評価できる。  
また、平城遷都1300年を迎えた奈良にふさわしい日本の原風景の空間を表現した「古の風景庭園」や新しい花風景を創出するために、現地地球根から植えたという「ダリア園」等緑化フェアならではのまとまった特徴ある花壇設計から園路沿いの細かな修景の演出に至るまで、現場での設計デザイン監理を活かした会場として整備されており、非常に優れた業務であるといえる。  
今後、県民参加型としてこのフェアに参加された方々により、さらに「花の都」奈良づくりが広まっていくことを期待する。

魅力を引き出すことによって多彩で感動的な花風景を展開し、これからの「まちづくり」「環境づくり」へ向けて、暮らしのなかで様々な場面を彩る花と緑の提案を行った。最後に、既存の良好な景観が残る『はじまりは奈良』では、「森」「野・野辺」「水辺」景観と万葉の歌に登場する植物を用いて構成された奈良らしい風景庭園や、県下の花人によるもてなしときっかけづく

りの場を創出した。

本フェアは「日本文化の原点」に連なる花と緑の文化のもつ価値を再発見・再認識する場であるとともに、花と緑のまちづくり『「花の都」奈良づくり』の推進力となるきっかけを創る場として多くの県民をはじめ企業、団体等の参画・協働のもと実現したフェアである。



ならフェア会場の断面図



芝生越しに「大和青垣」を望む



県民と協働した花植えにより交流の場を創出



来場者を草花で迎えるエントランス空間



多彩な品種のダリアの展示により象徴的な風景を演出



奈良を代表する花であるダリア



万葉集にも詠まれた秋の七草で彩る草地空間



多様な草花の特徴を活かしながら互いの花が調和する

# 奨励賞

## 広尾ガーデンフォレスト1・2期 ランドスケープ計画

株式会社三菱地所設計 藤江哲也・植田直樹・松尾教徳

### 概要

日赤医療センター（渋谷区広尾）再整備計画の一翼を担う集合住宅地に隣接する「広尾ガーデンヒルズ」と一体となった「水と緑あふれる都会のオアシス」を計画しました。

ランドスケープコンセプトのテーマは、協調・継承・ネットワークをイメージする「つなぐ」とし、住む人たちが四季折々の変化を身近に感じられる計画としました。

- ・広尾ガーデンヒルズの森との連携、次世代へつなぐ緑の演出
- ・既存樹を保存、土地の記憶（サクラ、レンガ）の継承による空間の演出
- ・「石」と「水」によりゲートから各棟エントランスへつながるシークエンスの演出
- ・住棟エントランスの内と外を同一テーマ〔桜、楓、白樺〕とした空間の演出

### 作品概要

作品名：広尾ガーデンフォレスト1・2期 ランドスケープ計画  
所在地：東京都渋谷区広尾4-1-42,51  
発注：三井不動産レジデンシャル株式会社・三菱地所レジデンス株式会社  
設計：株式会社三菱地所設計  
設計協力：Sasaki associates, Inc.  
監理：株式会社三菱地所設計  
施工：鹿島建設株式会社  
設計期間：2006年4月～2008年9月  
施工期間：2008年9月～2009年7月  
規模：敷地面積 約19,500㎡ 地上部緑化面積 約5,660㎡  
主要施設：エントランスガーデン、中庭、コートヤード等

### 作品評

この作品は、広尾ガーデンヒルズと日赤医療センターに隣接して新築された高級住宅「広尾ガーデンフォレスト」のランドスケープ設計及び監理を行った作品。プロジェクトでは、「つなぐ」という明確なコンセプトを掲げ、周辺の緑の連続、土地（旧日赤病院）の継承から敷地内のエントランス、住棟周り、中庭の演出等のデザインを展開している。また、従来からある既存樹の原位置保存や移植活用、セットバックと沿道緑化による歩行者空間の確保などトータル的なランドスケープづくりを行っている点も評価された。惜しむらくは、応募資料から全体の事業計画、コラボレーションの取組みや担当者の思いが十分に読み取れないなどプレゼンテーションの不備が否めず、これらの点が十分に表現されていれば、より高い評価を得られたものと思われる。





## 石塀と武家門のある小広場の設計 —城下町の町割が残る歴史的町なみにおける小広場の設計—

株式会社アーバンデザインコンサルタント 大杉哲哉・勝野靖弘・塚田和哉・矢鋪雅史

### □設計のポイント

#### ①「武家門」と「石塀」のデザイン

本作品は、歴史的地区の景観構成要素である「武家門」と「石塀」を活用し、周辺の町並み景観との調和を図るとともに、地区へのゲート空間として幹線道路からの景観に特徴を持たせ、隣接住宅と一体的な見え方とした。

#### ②町割を生かした空間整備

江戸時代からの町割が残る地区として、敷地がひとつの宅地としてイメージできるデザインとしながら、幹線道路からは広場全体が見渡せる施設配置とし、広場の中に生活のにおいが残るデザインとした。

#### ③地元住民とのデザインの共有

計画・設計を進める上で、「街なみ環境整備計画」の策定時に地元住民および文化財・建築家等により組織した「美しい中村を守ろう会」と協働し計画づくりを行った。

### 作品概要

作品名：石塀と武家門のある小広場の設計—城下町の町割が残る歴史的町なみにおける小広場の設計—  
所在地：長崎県対馬市厳原町中村地区  
発注：長崎県対馬市建設部建設課  
設計：株式会社アーバンデザインコンサルタント  
大杉哲哉、勝野靖弘、塚田和哉、矢鋪雅史  
設計期間：小広場実施設計：平成18年10月～平成19年3月  
中村地区街なみ環境整備計画：平成16年7月～平成16年11月  
規模：街なみ環境整備事業区域：2.3 ha 対象広場：423 m<sup>2</sup>  
主要施設：石塀、武家門、石壁モニュメント（ベンチ）

### 作品評

この作品は、朝鮮半島との交流が盛んであった江戸時代の面影を残す歴史的地区の玄関口となる小広場を対象としており、地区の街並み景観との調和を図り、当時の武家屋敷や石塀などの景観要素を取り入れて設計したものである。  
地区の入り口空間の象徴、隣接地との調和、歴史的資源の復元という3つの設計方針が、作品として具体的に表現されており、優れたデザイン性も認められた。歴史的空間の復元という、ややもするとかつてのものをそのまま再現することになりがちだが、本作品は単なる復元だけではなく、オリジナリティも感じられる空間・景観に設えた点が評価された。  
しかしながら、この小広場だけではインパクトは弱く、街並み全体の環境整備も行っているのであれば、街並み景観づくり全体を作品とすることでインパクトも強まり、情報発信性や発展性、地域の活性化といった作品の広がりもでてくることが期待でき、より高い評価を得られたものと思われる。その点は大変惜まれるところであった。



武家門と石塀を復旧し、武家屋敷通りの街なみの連続性を確保



復元された武家門と対馬を代表するヒトツバタゴのシンボルツリー



手前の石塀は、ベンチとして利用



広場に奥行きが感じられるとともに隣地の石塀、庭木、住宅と一体となった風景となるよう、高さの異なる石塀を配置



# CLA 賞の趣旨と募集・選考のあらまし

CLA 技術委員会委員長 萩野 一彦

## □ CLA 賞の趣旨

部門	賞	会社名	作品名	技術者
設計部門	優秀賞	株式会社三菱地所設計	一号館広場（丸の内パークビルディング・三菱一号館）	藤江哲也 植田直樹 松榮宏幸 渡辺修
	特別賞	株式会社空間創研	第27回全国都市緑化ならフェア 「やまと花ごよみ2010」	後藤逸成 泉崇 駒井修 宇戸睦雄 吉田昌弘
	奨励賞	株式会社三菱地所設計	広尾ガーデンフォレスト1・2期 ランドスケープ計画	藤江哲也 植田直樹 松尾教徳
	奨励賞	株式会社アーバンデザインコンサルタント	石堀と武家門のある小広場の設計 —城下町の町割が残る歴史的町なみにおける小広場の設計—	大杉哲哉 勝野靖弘 塚田和哉 矢舗雅史
調査・計画部門	優秀賞	株式会社ブレック研究所	里地里山自然資源管理モデル検討調査 —SATOYAMA イニシアティブの発信にむけて—	笠原岳洋 松井孝子 河島泰斗
	優秀賞	株式会社オオバ	パークシティ浜田山における緑地環境保全	土川豊 戸邊真人 忠岡俊彦 湯浅敦司 望月啓史 本田美保 萩野一彦
マネジメント部門	優秀賞	株式会社愛植物設計事務所	海浜砂丘の植生マネジメント —ダイキン工業グローバル研修所「ダイキンアレス青谷」を事例として—	趙賢一 佐藤力 山野秀樹 森野敏彰 伊藤麻子 中井理佐子 山本紀久 大塚生美

ランドスケープコンサルタンツ協会賞（CLA 賞）は、会員の優れた作品や業務を顕彰し、協会内部だけでなく広く社会に紹介し、協会全体の発展に寄与していくことを目的として設けられたものである。

この賞は、ランドスケープ分野のプロフェッショナルが、会員の行ったランドスケープのプロの仕事から自ら真摯に評価し、優秀なものを選定するというシステムに特徴がある。

プロがプロを手前味噌にならずに評価するというのは、言うは易いが実施はなかなか困難である。CLA 賞は30年近くもこの趣旨を継続しており、さまざまな顕彰制度の中で、稀有な存在と評価されている。これもひとえに会員の皆様の情熱と、選考委員や技術委員会委員の熱意にささえられたことであり、担当者として深く感謝する次第である。

## □ 募集・選考のあらまし

今回から、募集する部門を「設計部門」「調査・計画部門」「マネジメント部門」の3部門に整理統合し、CLA 賞の募集要綱に基づき、2010年11月24日を応募期限として作品等を募集し、その後選考委員会を開催し CLA 賞を決定した。

## □ 作品の応募と選考結果

作品の応募状況は以下のとおりで、応募作品総数は17作品と例年並みの作品数でした。選考結果は、最優秀賞：該

当なし、優秀賞：4点、特別賞：1点、奨励賞：2点の計7点の作品が受賞となった。

部門	応募点数	最優秀賞	優秀賞	特別賞	奨励賞
設計	10点	該当なし	1点	1点	2点
調査・計画	3点	該当なし	2点	該当なし	該当なし
マネジメント	4点	該当なし	1点	該当なし	該当なし
計	17点	該当なし	4点	1点	2点

## □ 選考委員会

選考委員会は CLA 会員の技術者だけでなく、学識経験者にも参加いただき、客観的な視点も加味して選考に当たられるように人選を行った。選考委員会の名簿は以下のとおりである。

### ・設計部門

委員長 島田正文（理事／日本大学短期大学部生物資源学科）

副委員長 川尻幸由（理事／㈱エイト日本技術開発）

委員 石井ちはる（会員／㈱総合設計研究所）

〃 金子隆行（技術委員／㈱ライフ計画事務所）

〃 福留正雄（技術委員／㈱ヘッズ）

〃 藤巻司郎（理事／藤造園建設㈱）

〃 丸山英幸（技術委員／㈱愛植物設計事務所）

\* 肩書きは選考委員会開催当時



藤江哲也 (ふじえてつや)

㈱三菱地所設計  
ランドスケープ  
室長。技術士(建設  
部門・総合技術  
監理部門)、一  
級建築士、RLA。  
東北大学工学  
部、ハーバード  
大学デザイン大  
学院卒業。主な業務経歴：丸の内エ  
リア(一号館広場・仲通り等)のラ  
ンドスケープ、集合住宅(広尾GF・  
MMタワー等)、大学キャンパス  
(九州大学等)や大規模開発マスタ  
ープラン等



植田直樹 (うえだなおき)

㈱三菱地所設計  
都市環境計画部  
ランドスケープ  
室 主幹。1989  
年東京大学農学  
部緑地学研究室  
卒。丸の内仲通  
りなどの街路整  
備や、新丸の内  
ビル、M.M.TOWERS・FORESIS など、  
都市環境やオープンスペースの計画  
に取り組み、丸の内パークビル・三  
菱一号館計画のランドスケープを計  
画当初から手がける。RLA。技術士



松榮宏幸 (まつえひろゆき)

1971年福岡県生  
まれ。九州産業  
大学芸術学部デ  
ザイン学科卒  
業。㈱総合設計  
研究所を経て  
2007年㈱三菱地  
所設計入社。現  
在、ランドスケ  
ープ室主事。主な業務経歴：柏崎夢  
の森公園、理化学研究所和光キャン  
パス、東京女子大学オープンスペ  
ース、丸の内パークビルディング・三  
菱一号館、豊洲フロントなど



渡辺 修 (わたなべおさむ)

1981年武蔵野美  
術大学造形学部  
卒業。主な業務  
経歴：相模大野  
駅前北口通り整  
備基本設計、越  
谷市総合市民会  
館周辺施設設  
計、北越北線十  
日町駅西口広場備基本設計、上越市  
謙信公広場基本設計、中国余姚市綜  
合物流基地設計コンペ。ランドスケ  
ープに関わる屋外計画・設計に従事



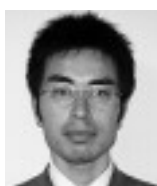
松井孝子 (まついたかこ)

1982年山梨大学  
工学部環境整備  
工学科卒業。同  
年㈱ブレック研  
究所入社、現在、  
環境共生部部  
長。全国各地に  
おける自然環境  
の保全・活用に  
関する調査・計画、地域づくりにお  
ける市民参加・合意形成支援、アセ  
スメント技術ガイド形成等の業務に  
従事。技術士(総合技術管理部門：  
建設環境、建設部門：建設環境、環  
境部門：自然環境保全)



河島泰斗 (かわしまたいと)

1998年京都大学  
総合人間学部人  
間学科卒業。同  
年㈱ブレック研  
究所入社、現在、  
環境共生部次  
長。主に、農村振興、  
歴史・文化的景  
観の保全、世界遺産や産業遺産の保  
全・活用など、地域資源活用や地域  
活性化に係る計画策定・政策立案に  
従事。技術士(環境部門：環境保全  
計画)



笠原岳洋 (かさらはたけひろ)

2007年宇都宮大  
学大学院農学研  
究課(農業環境  
工学専攻)修士  
課程修了。同年  
ブレック研究所  
入社、現在、環  
境共生部研究  
員。主に、自然  
環境の保全・活用に  
関する調査・分  
析、里地里山における地域資源活用  
や地域活性化に係る計画策定等に従  
事



土川 豊 (つちかわゆたか)

1969年千葉県千  
葉市生まれ。1993年千葉大学  
卒、㈱オオバ入  
社、現在に至る。  
主な業務分野：  
土地区画整理事  
業や民間開発事  
業及び公園・道  
路・ペDESTリ  
アンデッキ・河川等の公共施設整備  
における計画・デザイン分野を横断  
的に手がける。  
技術士(建設部門)、一級造園施工管  
理技士、土地区画整理士。  
趣味は学生時代から続けているスカ  
ッシュ



戸邊真人 (とべまさと)

1966年埼玉県生  
まれ。1991年再  
開発をやりたく  
て㈱オオバに入  
社。入社当初は  
主に法定都市計  
画を担当する  
が、いつしか開  
発事業に関する  
業務を主に担当するようになる。近  
年では、市街化調整区域における土  
地利用や開発に関する案件が増え、  
事業性よりも景観計画や環境計画を  
口にするようになる



忠岡俊彦 (ただおかとしひこ)

1962年千葉県生  
まれ。1984年中  
央大学理工学部  
土木工学科卒  
業。同年㈱オオ  
バ入社。土地区  
画整理事業や民  
間開発事業の計  
画及び基本設  
計、道路・駅前広場や公園等の公共  
施設整備に係る計画等に携わる。現  
在、三井不動産㈱に勤務。技術士(都  
市及び地方計画)。土地区画整理士



湯浅敦司 (ゆあさあつし)

1966年徳島県生  
まれ。1989年長  
岡技術科学大学  
建設工学課程卒  
業同年㈱オオバ  
に入社。主に、  
まちづくりの調  
査・計画及び土  
地区画整理事業  
や開発行為の都市計画業務に従事。  
ここ数年は、都市づくりの企画から  
事業立案などに従事しており、土地  
利用や都市計画の観点からの提案に  
努めている



望月啓史 (もちづきけいし)

1975年東京都生  
まれ。1998年武  
蔵工業大学(現  
東京都市大学)  
工学部土木工  
科卒業。㈱オオ  
バに勤務。主に、  
計画・デザイン  
分野の業務に従  
事。ここ数年は、土地区画整理事業  
に関連した計画・デザイン業務、駅  
前広場の計画・設計、景観計画など  
に従事。技術士(建設部門：都市及  
び地方計画)



本田美保 (ほんだみほ)

1979年生まれ。  
東京都出身。年  
武蔵野美術大学  
建築学科卒業。  
千葉大学大学院  
自然科学研究科  
終了後、2006年  
㈱オオバに入  
社。入社後、公  
園設計、まちづくり計画、河川利用  
促進計画、歩行者空間計画等に携わ  
る。  
現在子育て中のため、子供連れにも  
やさしいまち・公園を提案できるよ  
う取り組んでいる



萩野一彦 (はぎのかずひこ)

1960年東京生  
まれ。千葉大学  
大学院自然科学  
研究科博士後期  
課程修了。㈱オ  
オバ営業企画室  
専門部長。登録  
ランドスケープ  
アーキテクト  
(RLA)、博士  
(工学)、技術士  
(建設部門)。造園/ランドスケープ  
を軸に、都市計画、土木、建築の領  
域に跨るランドプランニングを専門  
分野とする。代表作：湘南国際村、  
びゅうヴェルジェ安中楼名、沖縄科  
学技術大学院大学、パークシティ浜  
田山など



趙 賢一 (ちようけんいち)

1956年生まれ。  
植物を基軸とす  
る生態系の調  
査・解析・評価  
をもとに、土地  
の資源を読みと  
り、自然環境の  
保全ならびに活  
用に関わる各種  
の計画立案を行う。最近、大学研  
究機関や都市および農山村にて、学  
生や住民を対象に自然環境の見方や  
つきあい方の講師活動も行ってい  
る。技術士。



佐藤 力 (さとうりき)

1971年東京都生  
まれ。1994年明  
治大学農学部農  
学科卒、同年㈱  
愛植物設計事務  
所入社。現在同  
環境調査・計画  
チーム長。  
主に自然環境及  
び希少動植物の保全・再生、自然  
環境の調査と保全・管理計画等に従  
事、特に市民協働による公園の維持管  
理で日々奮闘中。



山野秀規 (やまのひでき)

1972年神奈川県生まれ。1994年明治大学農学部農学科農学土木・緑地学専修卒業。同年、(株)愛植物設計事務所入社。一級造園施工管理技士、登録ランドスケープアーキテクト(RLA)。近年の主な業務として、汐留シティセンター植栽実施設計・監理・管理監修、パークシティ浜田山ランドスケープ計画・設計監修・管理監修等に携わる。



森野敏彰 (もりのとしあき)

千葉大学大学院自然科学研究科を修了後、2006年、(株)愛植物設計事務所に入社。生物分類技能検定1級(植物部門)、1級ビオトープ施工管理士、環境緑化樹木識別検定1級、自然環境調査・保全計画関連業務を担当。近年の主な業務として、那須平成の森の自然環境モニタリング調査・自然環境管理計画に携わる。



伊藤麻子 (いとうあさこ)

1980年神奈川県小田原市生まれ。鳥取大学農学部森林科学コース地域論地理学研究室(現在は景観生態学研究室)を修了。森林情報士1級(空中写真部門)、測量士補、2級ビオトープ施工管理士。現在は(株)愛植物設計事務所勤務。ツシヤマメコと共生する地域社会づくり、GIS、植生調査等に携わる。



中井理佐子 (なかいりさこ)

東京都出身。東京農業大学短期大学部農業科卒業。2008年(株)愛植物設計事務所入社。主な業務：植栽実施設計・公園や広場整備の基本設計等に従事。



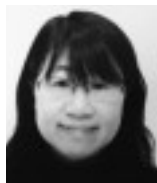
山本紀久 (やまもとのりひさ)

1940年生まれ。東京農業大学卒業。73年(株)愛植物設計事務所を設立。風土を表す「植物」を中心に、そこに関わる「生物」も含めた「生命体」に関する知識と体験を基軸にした「いきものランドスケープとマネジメント技術」の習得をめざす。土地の様相を見極めるための現場を重視し、調査～計画～設計～生産～施工～管理の「一貫性」を追求する。



大塚生美 (おおつかいぐみ)

筑波大学大学院生命環境科学研究科修了。森林環境政策、森林環境政策、土地利用計画、開発地の自然環境保全調整手法立案が専門。著書：環境時代のオレゴン州林業—森林施業法と木材生産の再編(単著)/日本林業の構造変化とセンサス体系の再編—2005年林業センサス分析(共著)/地域森林管理の主体形成と林業労働問題(共著)



後藤逸成 (ごとういつなり)

1973年愛知県生まれ。名古屋造形芸術短期大学造形芸術学科ランドスケープデザインコース卒業。1995年(株)空間創研入社。主に都市公園・緑地などの計画から実施設計及び緑化イベントの企画・運営に携わり、日々、身近で快適な空間づくりを目標とする。登録ランドスケープアーキテクト(RLA)



泉 崇 (いづみたかし)

1997年金沢美術工芸大学卒業。同年、(株)空間創研入社。公園緑地の実施設計を主体に、植物発生材の利活用や草地管理の調査・研究など様々な業務に携わる。「場」の特性を見つめ、時間の経過とともに心地よく魅力的なものとなる「場づくり」を目標に仕事に取り組んでいる



駒井 修 (こまいおさむ)

1950年京都市生まれ。1989年(株)空間創研入社。国際花と緑の博覧会「花の谷等」の花壇設計、第11回全国都市緑化きょうとフェア修景花壇設計、第23回全国都市緑化おおさかフェア花づくりの庭設計等草花を活かした空間づくりを目指すとともに、京都を中心に文化財の復元とその周辺環境整備の設計を中心に活動している



宇戸睦雄 (うどむつお)

1960年京都市生まれ。1993年(株)空間創研入社。「植物の生育基盤」と「空間(ものとの間の間)」にこだわり調査、計画、設計と幅広く仕事をしているうちにはや29年。空気のように目立たず、かといって「無くては困る空間づくり」を目指しています。代表作：梅小路公園「朱雀の庭」「いのちの森」



吉田昌弘 (よしだまさひろ)

1943年大阪生まれ。京都府立大学農学部林学科卒業。(株)井上造園設計事務所に入社し、公園・庭園、河川・道路の環境整備の計画設計、また緑地計画や都市の景観形成計画等、ランドスケープに関わる様々な業務に携わる。都市公園コンクール大臣賞受賞作品(第1回、第11回、第17回)に携わった他、梅小路公園で日本造園学会賞、2001チュエルシーフラワーショー出展庭園で金賞・最優秀賞等多数の受賞作品を手がけている。「風土と文化に根ざしたランドスケープとは何か」を追求しつつ、現在は(株)空間創研の会長を務めている



松尾教徳 (まつおみちのり)

1982年東京農業大学農学部造園学科卒、(株)共同計画/環境事務所、(株)メックデザイン・インターナショナルを経て、(株)三菱地所設計入社。ランドスケープ計画・設計・監理に従事。2010年ミッドオアシスタワー、パークハウス木々にてグッドデザイン賞受賞



大杉哲哉 (おおすぎてつや)

1982年東京農業大学造園学科卒業後、(株)アーバンデザインコンサルタントに入社。公園計画・設計、まちなみ環境整備計画、道路修景計画、区画整理事業、ワークショップの企画・運営等の業に携わる。技術士(建設部門)、RCCM(道路)、登録ランドスケープアーキテクト



## 造園関連団体といっしょに活動しています

3月11日に発生した東日本大震災により、犠牲になられた方々にご冥福をお祈りするとともに、被災された方々に心よりお見舞いを申し上げます。

津波による被害の大きさは想像を絶するものがあり、無力感を覚えるとともに、何か行動を起こさねばならないとの気持ちが溢れてきます。復興、防災、減災をランドスケープの重要なテーマとして取り組む必要を改めて強く感じています。

北海道支部は、環境緑地研究所、サイプレス・ランドスケーププランニング、シビテック、ダイシン設計、高野ランドスケーププランニング、ドーコン、パシフィックコンサルタンツ北海道支社、北海道造園設計、ライウ環境計画の9社の会員がおり、日本体育施設北海道支店と長谷川体育施設北海道支店の2社に賛助会員として参加しています。業務委員会と技術委員会を中心に普段の活動を行っていますが、大きな活動は造園関連団体と共同で行っています。

年間を通して行っているのは、NPO法人ガーデンアイランド北海道の支援です。「ガーデンアイランド北海道」は、北海道の自然、緑、花をテーマに、「美しい庭園の島・北海道」の実現を目指し、道民運動への発展を願って行っている活動です。2003年に開始し、全道の自然公園や都市公園、庭園、景勝地（自然景観、農村景観）を会場に登録して「花と緑のネットワークづくり」を進めるなど、様々な活動を行っています。ぜひ、ホームページをご覧ください。



大きなイベントとしては、「ランドスケープシンポジウム」を開催しています。これは、(社)日本造園学会北海道支部、(社)北海道造園緑化建設業協会、(財)札幌市公園緑化協会との共催で行っています。2010年度は、100歳を迎えた円山公園（札幌市内）を会場にし、「円山公園これまでの歩みから将来を考える—円山公園の変遷から考える公園利用と保全—」をテーマに開催しました。マスコミにも取り上げてもらい、市民の皆さんにもたくさん参加していただきました。

また、日本造園学会北海道支部大会にも協賛し、当支部会員が様々な場面で活躍しています。

その他、北海道緑化樹情報連絡会議（主催：地方独立行政法人北海道立総合研究機構）、北海道造園緑化関係団体連絡協議会（6団体）にも参加し、情報交換や相互研鑽に取り組んでいます。

北海道内造園人の最大の交流組織として、北海道造園懇話会があります。これは、所属する組織を問わず個人で参加する集まりで、現在の会員数は300名弱です。2010年に50周年を迎えました。交流会や見学会を開催していますが、当支部も事務局の一端を担っています。

以上のように、我が北海道支部は、他の造園関連団体と和気あいあいと活動しています。



ランドスケープシンポジウム2010

## ビジョンセミナー開催 ほか

### □ 活動概要

関東支部では、業務、事業、広報の3つの委員会を中心に支部活動を行いました。活動方針の柱は、本部との連携をより密とする体制をつくり、支部活動の地域密着化と若手技術者の交流・育成、造園他業種との連携強化において活動を行いました。

### □ 業務委員会

業務委員会では、本部業務委員会と連携して、下記の各種営業ツール作成やとりまとめを活発に行いました。

- ① 超簡易型プロポーザルの実施要領（案）のとりまとめを行いました。
- ② 会員情報の収集に係る考え方の整理を行いました。
- ③ 業務報酬積算基準の改定に着手を行いました。

### □ 事業委員会

事業委員会では、必要となる各種技術情報を会員へ提供

するとともに、対外的にわれわれの職能の技術的な面をアピールすることを目的に活動を行いました。

- ① 支部会員の技術研修会として、「新技術発表会」、「関東支部ビジョンセミナー」を各1回ずつ開催しました。
- ② 造園他業種（施工・施設・材料業等）との協働を検討する目的で、「造園他業種との意見交換会」開催に向けて準備調整を行っています。

### □ 広報委員会

広報委員会では、支部活動を外部へPRし、会員・賛助会員に役立つ情報を収集、発信することを目的に活動を行いました。

- ① 社会動向を察知し、CLA と関わりのあるテーマ特集で支部広報情報誌「みどりの手帖」を3号発行し、自治体・関係団体・大学・支部会員等に配布しました。
- ② 幹事会・委員会報告、セミナー・交流会開催の取材報告をHPに掲載しました。



ビジョンセミナーの開催



支部情報誌「みどりの手帖」の発行

## 「名古屋開府400年祭」を記念した講演会を実施

### □ 通常支部総会の開催

平成22年4月21日、名古屋市中区のアイリス愛知において通常支部総会を開催しました。支部役員から平成21年度事業活動と収支決算の報告、平成22年度の事業計画案と収支予算案の提案、さらには役員改選を満場一致で会員の承認を受けました。

併せて、功労者表彰の授与式も執り行い、中部支部の活動に長年に渡りご活躍され、ランドスケープ界の発展に寄与された「企業1社」と「個人2名」に表彰が贈られました。

また、通常支部総会終了後の意見交換会では、出席者から支部活動に対するご意見・ご助言をうかがうことができました。

### □ 「名古屋開府400年祭」記念講演会の開催

平成22年9月28日、名古屋能楽堂および名古屋城において「名古屋開府400年」記念講演として「名古屋城と庭園」および「二の丸庭園現地見学会」を実施しました。

内容は、中部支部副支部長の尾関利勝による「名古屋城

の構成」と銜野村庭園研究所の野村勘治氏による「二の丸庭園」の2つの講演と、引き続き、野村氏による二の丸庭園での現地見学会を行いました。

見学会では、庭園の造設当時の秘話など庭園の歴史やその意義について、野村氏の長年にわたる調査・研究成果に基づく含蓄のある内容を解りやすく、また、とてもおもしろく説明をしていただきました。

講演会および見学会には、当支部会員や関連団体の方々をはじめ、中部地方整備局、愛知県や名古屋市職員の方々にも参加いただき、定数の50名参加による盛大な会を催すことができました。

### □ 「公園施設長寿命化計画策定業務の実施」の講演

平成22年5月11日、名古屋市西区の名古屋通信会館において、(社)日本公園施設業協会中部支部設立20周年の記念講演会が開催され、中部支部長の吉田勇次が招かれ、「公園長寿命化計画策定業務の実施」について講演し、協会設立20周年の盛会に資することができました。



通常支部総会



名古屋城と庭園講演会



功労者表彰



二の丸庭園現地見学会

## 「すこやか公園」のアピール ほか

### □ 花博20周年記念事業への参加

4月29日から1週間、大阪の鶴見緑地で開催された記念事業で、当支部ではCLA賞や「緑のまちづくり景観賞」のパネル展示を行い、CLAの活動を一般市民にアピールすることができました。

### □ ランドスケープ講演会の開催

5月に吉村元男氏(元鳥取環境大学教授)、7月に涌井史郎氏(東京都市大学教授)に講演をしていただきました。「環境の時代」に取り組むべき課題とは? という内容で、双方とも官民間わず多くの視聴者で会場は満杯になりました。

### □ 学生設計協議の開催

今回(第10回)は奈良の東大寺に近接した駐車場を対象に「ならのにわ1301」をテーマとしたもので、全国から32点の応募がありました。歴史・文化を踏まえつつもユニークな作品が多く見られました。

### □ 街角サロン

7月に京都御所・仙洞御所の庭園見学と植栽の剪定技法

についての研修で、川瀬昇作氏(宮内庁京都事務所)に現地説明をしていただきました。12月には柴田昌三氏(京都大学教授)から「タケ類」についての講義をしていただきました。普段経験できない貴重な研修でした。

### □ 「すこやか公園」のアピール

アクションプランに採りあげられた「すこやか公園」の意義・効果等について、関西の主な自治体にアピールし好評を得ました。

その他「グリーンサーカス2010」の開催(今年は1日中雨天)、「全国都市緑化ならフェア」における庭園特別出展への参加等、対内・対外活動を積極的に進めました。



## 九州ランドスケープセミナー・福博花しるべガーデニングショー

### □ 九州ランドスケープセミナー

九州支部では、平成21年度よりランドスケープに関係する業界および学生を対象とした『九州ランドスケープセミナー』を毎年2回開催しています。毎回、ランドスケープに係る自治体職員・コンサルタント・関係団体の皆様の参加を得ています。

○平成22年9月24日(金)開催

テーマ:『ワークショップ手法を公園の整備や管理に生かすには?』

ワークショップによって生まれた公園が、「地域住民が自分たちで作った愛すべき公園と感じる」ファシリテートができていだろうかという課題があるようです。セミナーでは、日本ファシリテーション協会の田坂逸郎氏と志賀壮士氏を講師にファシリテーションの基礎とワークショップの実践の講座を開きました。

○平成22年12月10日(金)開催

テーマ:『環境問題の本質を知り、これからの環境ビジネスのあり方を考える』

環境問題の本質を再度整理し、われわれが携わる緑の仕事を含めて、これからの環境ビジネスについて考えるため、琉球大学工学部環境建設工学科教授の堤純一郎様を講師にむかえ、環境影響評価やエネルギー対策の現場から、ナマの環境問題を語っていただきました。

### □ 福博花しるべガーデニングショー

福岡市では、都心部の回遊ルートを花により修景し、来街者へ魅力ある都市を印象付けるとともに、快適な歩行者空間の形成を目指し、平成23年3月26日から4月3日の期間、『福博花しるべガーデニングショー』が市役所西側広場で開催されました。九州支部では、賛助会員の協力をもらい、「憩いの庭」を出展しました。



# 社団法人ランドスケープコンサルタンツ協会会員名簿

平成23年5月現在

◎：会長 ○：副会長 ◇：常任理事

正会員 (五十音順)						
会 員 名	電話番号	協会代表者	〒	所 在 地	FAX 番号	
(株)アーバンデザインコンサルタント	03-3353-1016	山口 隆 康	160-0022	新宿区新宿1-26-9 ビリーヴ新宿	03-3353-1018	
(株)アーバンデザインコンサルタント	092-482-8001	◇堤 八 恵子	812-0011	福岡市博多区駅前2-12-26 福岡 D ビル	092-482-8021	
(株)愛植物設計事務所	03-3291-3380	山本 紀 久	101-0064	千代田区猿楽町2-4-11 犬塚ビル	03-3291-3381	
(株)あい造園設計事務所	03-3325-6660	細谷 恒 夫	168-0063	杉並区和泉3-46-9 YS 第一ビル	03-3325-6262	
(株)荒木造園設計	0727-61-8874	荒木 美 眞	563-0024	池田市鉢塚2-10-11	0727-62-8234	
(株)荒谷建設コンサルタント	082-292-5481	矢野 順 也	730-0831	広島市中区江波西1-25-5	082-294-3575	
(株)ウエスコ	086-254-2433	永山 彰	700-0033	岡山市島田本町2-5-35	086-256-5161	
(株)エイト日本技術開発	03-5385-5111	◇川尻 幸 由	164-8601	中野区本町5-33-11 中野清水ビル	03-5341-8520	
(株)エキープ・エスパス	03-5790-5101	峰岸 久 雄	151-0062	渋谷区富ヶ谷1-51-12 小塚ビル	03-5790-0381	
(株)エス・イー・エヌ環境計画室	06-6373-4117	津田 主 税	530-0014	大阪市北区鶴野町4-11-1106	06-6373-4617	
(株) LAU 公共施設研究所	03-3269-6711	山本 忠 順	162-0801	新宿区山吹町352-22 グローサユウ新宿	03-3269-6715	
(株)オオバ	03-3460-0127	萩野 一 彦	153-0042	目黒区青葉台4-4-12-101	03-3467-8160	
(株)環境・グリーンエンジニア	03-5209-3691	杉浦 力	101-0041	千代田区神田須田町2-6-5 OS'85ビル	03-5209-3696	
(株)環境事業計画研究所	075-431-0055	吉村 龍 二	602-8261	京都市上京区多門町440-6	075-431-0006	
(株)環境設計(株)	06-6261-2144	井上 芳 治	541-0056	大阪市中央区久太郎町1-4-2	06-6261-2146	
(株)環境設計研究室	03-3584-1251	川瀬 篤 美	107-0052	港区赤坂2-17-22 赤坂ツインタワー本館11階	03-3584-1877	
(株)環境デザイン研究所	03-5575-7171	佐藤 文 昭	106-0032	港区六本木5-12-22 永坂ビル	03-5562-9928	
(株)環境緑地設計研究所	078-392-1701	松下 慶 浩	650-0024	神戸市中央区海岸通2-2-3 サンエービル	078-392-1576	
(株)環研究所	06-6306-2481	大石 博	532-0011	大阪市淀川区西中島6-8-20 花原第7ビル	06-6303-8614	
(株)キタイ設計(株)	0748-46-4902	梶 雅 弘	521-1398	近江八幡市安土町上豊浦1030	0748-46-5620	
(株)空間創研	075-353-6337	◇吉田 昌 弘	600-8239	京都市下京区東堀川通下魚ノ棚下る鎌屋町23番地 シンエイ堀川ビル	075-353-6338	
(株)空間文化開発機構	06-6229-0130	真鍋 建 男	541-0046	大阪市中央区平野町1-8-8 平野町安井ビル	06-6229-1292	
(株)グラック	03-3249-3010	○枝 吉 茂 種	103-0004	中央区東日本橋3-6-17 山一織物ビル	03-5645-7685	
(株)KRC	026-285-7670	宮入賢一郎	381-2217	長野市稲里町中央3-33-23	026-254-7301	
(株)景観設計研究所	06-6535-0175	山田 直 樹	550-0012	大阪市西区立売堀1-2-14 本町産金ビル	06-6535-0176	
(株)景観設計・東京	03-5435-1170	都田 徹	141-0031	品川区西五反田3-8-3 町原ビル	03-5435-0909	
(株)景観プランニング	028-650-3030	石松 良 介	320-0036	宇都宮市小幡1-3-16	028-650-3034	
サンコーコンサルタント(株)	03-3683-7152	有賀 一 郎	136-8522	江東区亀戸1-8-9	03-3683-7116	
(株)シビックデザイン研究所	03-3226-9821	出来 正 典	160-0022	新宿区新宿1-13-11 シアヤビル	03-3226-9815	
(株)新日本コンサルタント	076-436-2111	西田 宏	930-0142	富山市吉作910-1	076-436-2260	
(株)スペースビジョン研究所	06-6942-6569	宮前 保 子	540-0012	大阪市中央区谷町2-9-3 ガレリア大手前ビル	06-6942-6897	
セントラルコンサルタント(株)	03-5117-1061	高野 英 生	104-0042	中央区入船1-4-10	03-5117-1081	
(株)ZEN 環境設計	092-643-5500	中村 久 二	812-0053	福岡市東区箱崎1-32-40	092-643-5520	
(株)爽環境計画	03-3829-4691	木村 隆	130-0013	墨田区錦糸3-7-11 メゾン・ド・ファミール	03-3829-4692	
(株)創建	052-682-3848	丸山 昇	456-0018	名古屋市熱田区新尾頭1-10-1	052-682-3015	
(株)総合計画機構	06-6942-1877	濱口 和 雄	540-0012	大阪市中央区谷町2-2-22 NSビル	06-6942-2447	
(株)総合設計研究所	03-3263-5954	木村 弘	102-0072	千代田区飯田橋4-9-4 飯田橋ビル1号館	03-3263-7996	
創和エクステリア(株)	045-662-8028	風間 伸 造	231-0002	横浜市中区海岸通4-23 大宗マリンビル	045-662-8664	
第一復建(株)	095-557-1300	畠山 美 久	815-0031	福岡市南区清水4-2-8	092-557-2110	
大日本コンサルタント(株)	0489-88-8119	伝谷 恵 一	343-0851	越谷市七左町5-1	0489-88-3115	
高野ランドスケーププランニング(株)	0155-42-3181	○高野 文 彰	080-0344	河東郡音更町字万年西1線37番地 旧チャンネル小学校	0155-42-3863	
玉野総合コンサルタント(株)	052-979-9111	◇吉田 勇 次	461-0005	名古屋市東区東桜2-17-14 新栄町ビル	052-979-9112	
(株)タム地域環境研究所	03-5348-5432	◇秋山 寛	164-0003	中野区東中野3-10-12 石川デンタルビル	03-5348-5431	
(株)地域計画建築研究所	06-6942-5732	畑 中 直 樹	540-0001	大阪市中央区城見1-4-70 住友生命OBPプラザビル	06-6941-7478	
(株)地球号	06-6945-7566	中見 哲	540-0031	大阪市中央区北浜東6-6 アクアタワー	06-6945-7595	
中央コンサルタンツ(株)	052-551-2541	藤本 博 史	451-0042	名古屋市西区那古野2-11-23	052-551-2540	
(株)東京ランドスケープ研究所	03-5919-2288	佐々木 亨	160-0022	新宿区新宿2-6-4 KN 新宿ビル	03-5919-2290	
(株)ドーコン	011-801-1535	◇大塚 英 典	004-8585	札幌市厚別区厚別中央1条5-4-1	011-801-1536	
(株)都市環境ランドスケープ	06-6946-9588	波多野芳紀	540-0034	大阪市中央区島町2-4-9 島町第二野村ビル	06-6946-9747	
(株)都市計画研究所	03-3262-6341	佐藤 憲 璋	103-0014	中央区日本橋蛸殻町2-13-5 美濃友ビル	03-3669-8924	
(株)トデック	03-5638-2176	越智 常 博	135-0007	江東区新大橋1-8-11 三井生命新大橋ビル	03-5638-2168	
(株)ナカタク空間企画	06-6930-4890	中田 政 廣	536-0015	大阪市城東区新喜多1-2-17-104	06-6930-4896	
中日本建設コンサルタント(株)	052-232-6032	中西 秀 伸	460-0003	名古屋市東区錦1-8-6	052-221-7827	
(株)中根庭園研究所	075-465-2373	中根 史 郎	616-8013	京都市右京区谷口唐田ノ内町1-6	075-465-2374	
(株)虹設計事務所	03-3419-7259	光益 尚 登	154-0023	世田谷区若林1-1-18	03-3419-7246	
(株)日本総合計画研究所	03-3254-9668	坂本 圭	101-0047	千代田区内神田3-2-1 栄ビル	03-3254-6714	
(株)ニュージェック	06-6374-4032	出口 直 彦	531-0074	大阪市北区本庄東2-3-20	06-6374-5147	
パシフィックコンサルタンツ(株)	042-372-6530	西上 律 治	206-8550	多摩市関戸1-7-5	042-372-6349	
(株)フジランドスケープ	03-5719-2919	新井 豊	141-0031	品川区西五反田3-8-17 宮野ビル302	03-6410-8135	
(株)復建技術コンサルタント	022-262-1234	岩 潤 善 弘	980-0012	仙台市青葉区錦町1-7-25	022-265-9309	
復建調査設計(株)	082-506-1853	来山 尚 義	732-0052	広島市東区光町2-10-11	082-506-1890	
(株)ブレック研究所	03-5226-1101	◇前澤 洋 一	102-0083	千代田区麴町3-7-6 麴町 PREC ビル	03-5226-1112	
(株)ヘッズ	06-6373-9369	◎大塚 守 康	530-0022	大阪市北区浪花町12-24 創建天六ビル	06-6373-9370	
北海道造園設計(株)	011-758-2261	及川 涉	060-0807	札幌市北区北7条西2-6 山京ビル	011-709-5341	
(株)ポリテック・エイディディ	03-3456-3010	徳丸 秀 夫	105-0014	港区芝1-5-12 TOP 浜松町ビル	03-3456-3015	

会 員 名	電話番号	協会代表者	〒	所 在 地	FAX 番号
㈱三菱地所設計	03-3287-5750	藤 江 哲 也	100-0005	千代田区丸の内3-2-3 富士ビル	03-3287-3230
㈱緑設計	0188-62-4263	板 垣 清 美	010-0973	秋田市八橋本町4-10-26	0188-62-4273
㈱緑の風景計画	03-3422-9511	板垣久美子	154-0012	世田谷区駒沢2-6-16	03-3422-9530
㈱森緑地設計事務所	03-3585-8361	藤 内 誠 一	106-0044	港区東麻布1-4-3 木内第2ビル	03-3582-2758
㈱UR リンケージ	03-6214-5700	石 田 晶	103-0027	中央区日本橋1-5-3 日本橋西川ビル	03-6214-5665
㈱ライブ計画事務所	03-5626-4741	村 岡 政 子	136-0071	江東区亀戸2-36-12	03-5626-4740
㈱LAT 環境クリエイト	082-273-2605	青 木 成 夫	733-0821	広島市西区庚午北2-1-4	082-271-2230
㈱ランズ計画研究所	045-322-0581	川 島 保	220-0004	横浜市西区北幸2-10-27 東武立野ビル	045-322-0719
㈱リアライズ造園設計事務所	06-6941-1151	新 井 英 光	540-0038	大阪市中央区内淡路町2-1-7	06-6941-1154
㈱緑景	06-6763-7167	瀬 川 勝 之	542-0064	大阪市中央区上汐1-4-6 吉井ビル	06-6765-5599
㈱緑生研究所	042-499-7211	井 上 康 平	182-0026	調布市小島町2-40-10 桐生ビル	042-487-4334
<b>準会員 (五十音順)</b>					
㈱エコシビルデザイン	03-5362-3701	上 村 央	160-0016	新宿区信濃町11-3 AK 信濃町ビル	03-5362-3702
㈱エコル	03-5791-2901	庄 司 悦 雄	108-0074	港区高輪3-4-1 高輪偕成ビル	03-5791-2902
㈱環境緑地研究所	011-221-4101	小 川 興 司	060-0004	札幌市中央区北4条西6-1-1 毎日札幌会館	011-221-4237
㈱現代ランドスケープ	06-6203-1270	西 辻 俊 明	541-0047	大阪市中央区淡路町2-1-10 ユニ船場	06-6203-1271
㈱サイプレス・ランドスケーププランニング	011-211-6811	中 村 圭 吾	060-0062	札幌市中央区南2条西10丁目2 山内ビル	011-211-6812
㈱シビテック	011-816-3001	川 村 信 二	003-0002	札幌市白石区東札幌2条5-8-1	011-816-2561
㈱セット設計事務所	042-324-0724	池田与志雄	185-0012	国分寺市本町2-16-4	042-324-3468
㈱デザイン設計㈱	011-222-2325	関 利 洋	060-0005	札幌市中央区北5条西6-1-23	011-222-9103
㈱塚原緑地研究所	043-279-8005	塚 原 道 夫	261-0011	千葉市美浜区真砂3-3-7	043-279-8142
㈱辻本智子環境デザイン研究所	0799-72-0216	辻 本 智 子	656-2401	淡路市岩屋3000-176	0799-72-0217
㈱東京建設コンサルタント	03-5980-2633	和 田 淳	107-0004	豊島区北大塚1-15-6	03-5980-2601
㈱都市ランドスケープ	03-5269-8982	内藤英四郎	162-0065	新宿区住吉町5-7 曙橋ハイム鍋倉	03-5269-8982
㈱都市・景観設計	06-6228-3388	奥 村 信 一	541-0041	大阪市中央区北浜1-1-21 第2中井ビル	06-6228-3387
㈱パーク総合デザイン	075-343-4436	松 原 法 昭	600-8357	京都市下京区猪熊通5条下る柿本町595-28	075-343-4870
㈱ライブ環境計画	011-204-7922	有 山 忠 男	060-0042	札幌市中央区大通西14-1-13 北日本南大通ビル	011-204-7955
㈱緑住環境計画	042-525-4560	松岡二三夫	190-0022	立川市錦町1-12-10 鈴木ビル	042-525-4561
<b>賛助会員 (五十音順)</b>					
アゴラ造園㈱	03-3997-2108	高橋正之輔	179-0075	練馬区高松6-2-18	03-3997-2252
荒木窯業㈱	0942-27-3231	福 山 茂	830-0063	久留米市荒木町荒木823	0942-27-3234
石黒体育施設㈱	052-757-4030	石 黒 和 重	464-0848	名古屋市千種区春岡2-27-18	052-763-8110
㈱ウォーターデザイン	03-3431-8070	流 郷 幹 男	105-0004	港区新橋6-9-2 新橋第一ビル	03-3431-8116
内田工業㈱	052-352-1811	内 田 裕 郎	454-0825	名古屋市中区区好本町3-67	052-351-1326
H.O.C ㈱	0956-48-8102	鎗流馬清規	858-0907	佐世保市棚方町221-2	0956-48-8111
㈱岡部	0764-41-4651	竹 中 祐 利	930-0026	富山市八人町6-2	0764-31-6340
快工房㈱	03-3523-1056	時 岡 邦 男	104-0032	中央区八丁堀1-12-4	03-3523-1058
小岩金網㈱	03-5828-8828	島 倉 邦 彦	111-0035	台東区西浅草3-20-14 JNT ビル	03-5828-7693
㈱コトブキ タウンスケープ営業本部	03-5280-5400	上野山直樹	101-0062	千代田区神田駿河台1-2-1	03-5280-5768
㈱ザイエンス 営業本部	03-3284-0501	小 山 幹 雄	101-0044	千代田区鍛冶町1-9-4 KYY ビル	03-3284-0504
㈱サカエ	0422-47-5981	栗 田 嘉 嗣	181-0004	三鷹市新川4-7-19	0422-49-2122
㈱サトミ産業	0258-35-3005	佐 藤 勉	940-0864	長岡市川崎5-495	0258-34-2513
㈱三英 景観事業部	04-7153-3141	尾 山 弘 善	270-0133	流山市十太夫108-1	04-7153-3146
㈱三榮企業	042-386-8760	長 嶋 孝 衛	184-0014	小金井市貫井南町4-11-36	042-386-8761
㈱サンエス	042-564-1021	横 倉 登	207-0022	東大和市桜が丘4-322	042-565-7239
西武造園㈱	03-6863-3732	高 橋 尚 史	171-0022	豊島区南池袋2-30-11 池袋第一生命ビル	03-6863-3733
大永ドリーム㈱	027-269-6084	永 島 勝 治	371-0131	前橋市鳥取町158-7	027-269-6086
太陽工業㈱ 空間デザインカンパニー	03-3714-3461	坂 手 素 行	153-0043	目黒区東山3-16-19	03-3791-7731
タカオ㈱	0849-55-1275	高 尾 典 秀	720-0004	福山市御幸町中津原1787-1	0849-55-2481
㈱中京スポーツ施設	0561-53-1111	大内田 博	488-0022	尾張旭市狩宿新町2-27	0561-53-1000
テック大洋工業㈱	03-5703-1441	小 俣 智 裕	144-0052	大田区蒲田4-22-8	03-5703-1444
東亜道路工業㈱	03-3405-1813	田 中 秀 明	106-0032	港区六本木7-3-7	03-3405-4210
トースイ㈱	03-5276-1101	星 野 弘 壽	102-0093	千代田区平河町1-7-7	03-5276-1117
東邦レオ㈱	06-6767-1110	木 田 幸 男	540-0005	大阪市中央区上町1-1-28	06-6767-1263
トーヨーマテラン㈱	0568-88-7080	池 上 英 雄	480-0303	春日井市明知町1512	0568-88-3370
中村シラトリ㈱	0543-35-6271	石 田 勝 若	424-0911	静岡市清水区宮加三660番地	0543-35-6273
㈱中村製作所	047-330-1111	朝 倉 辰 夫	271-0093	松戸市小山510	047-330-1119
㈱ナベシマ	093-617-3039	鍋 島 雅 英	807-1262	北九州市八幡西区野面1101-1	093-617-3040
日都産業㈱	03-3333-0210	結 城 健 治	167-0053	杉並区西荻南1-1-9	03-3333-0631
日本体育施設㈱	03-5337-2616	奥 裕 之	164-0003	中野区東中野3-20-10 ケイエム中野ビル	03-5337-2610
長谷川体育施設㈱	03-3422-5331	竹 内 俊 裕	154-0004	世田谷区太子堂1-4-21	03-3412-8415
花豊造園㈱	075-341-2246	山 田 昌 次	600-8361	京都市下京区大宮通五条下る二丁目堀之上町518番地	075-361-0961
㈱日比谷アメニス	03-3453-2401	奥 本 寛	108-0073	港区三田4-7-27	03-3453-2426
㈱富士植木	03-3265-6731	成 家 岳	102-0074	千代田区九段南4-1-9	03-3265-3031
㈱丸山製作所	03-3637-4340	丸 山 智 正	136-0071	江東区亀戸7-5-1	03-3683-7553
㈱みぞい	022-255-9770	溝 井 敏 男	983-0821	仙台市宮城野区岩切字畑中5-9	022-255-5546
ミロモックル産業㈱	06-6390-0102	西 森 洋 史	532-0011	大阪市淀川区西中島5-1-8 日研ビル	06-6307-2133



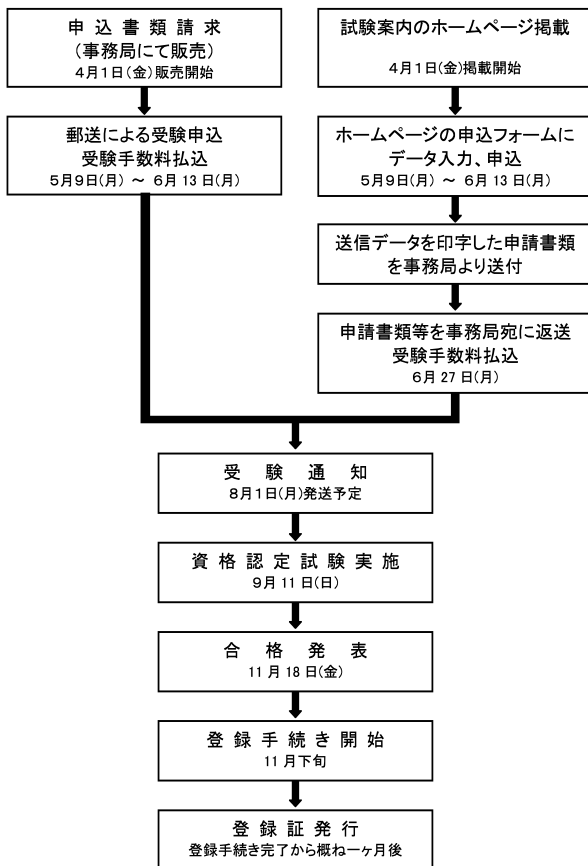
## 2011年 登録ランドスケープアーキテクト(RLA)資格認定試験の実施について

2011年1月15日

登録ランドスケープアーキテクト(RLA)資格制度総合管理委員会  
社団法人 ランドスケープコンサルタンツ協会

登録ランドスケープアーキテクト(RLA)資格制度実施規程に基づく「登録ランドスケープアーキテクト(RLA)資格認定試験」(以下「RLA 資格認定試験」)を下記のとおり実施します。

### 1. RLA 資格取得までの流れ



※部分受験(再受験)の方については別途事務局より試験案内をさせていただきます

### 2. 試験実施日時

2011年9月11日(日) 9時00分～19時00分

### 3. 試験地

東京・大阪の2地区

### 4. 受験手数料

15,750円(税込み)

### 5. 申込受付期間

2011年5月9日(月)～6月13日(月)

### 6. 受験資格

学歴により、以下のいずれかに該当する者。

学 歴	ランドスケープアーキテクチャに関する 必要な業務経験年数	
	指定学科	指定学科以外
大 学 卒 業 者	卒業後3年以上の 実務経験を有する者 このうち1年以上の主体的立場での実務経験が含まれていること	卒業後5年以上の 実務経験を有する者
短 期 大 学 卒 業 者 高等専門学校(5年制)卒業	卒業後5年以上の 実務経験を有する者 このうち1年以上の主体的立場での実務経験が含まれていること	卒業後7年以上の 実務経験を有する者
高 校 卒 業 者	卒業後10年以上の 実務経験を有する者 このうち1年以上の主体的立場での実務経験が含まれていること	卒業後12年以上の 実務経験を有する者
上 記 以 外 の 者	卒業後15年以上の 実務経験を有する者 このうち1年以上の主体的立場での実務経験が含まれていること	

- (注)1 ランドスケープアーキテクチャに関する業務経験とは、ランドスケープアーキテクチャ事業の計画・調査・立案・助言及び設計・監理の業務に従事した業務経験をいいます。  
2 ランドスケープ系大学院の課程を修了した場合は、正規課程の年数を業務経験年数として計上することを認めます。  
3 指定学科とは、造園、緑地、農学、林学、環境、園芸、都市、地域、土木、建築系等のランドスケープアーキテクチャに関する学科をいいます(詳細は受験の手引をご参照ください)。

### 7. 試験の一部免除について

技術士を所有する方は、必要な書類を提出することにより、本資格認定試験の一部免除を受けることができます(詳細は受験の手引をご参照ください)。

### 8. 申込方法

申込方法は、左図のとおり①ホームページからの申込と②郵便による申込の2つの方法があります。

①はホームページ上に掲載される申込フォームに必要な事項を入力し申込んだ後、事務局より返送される申込用紙に署名、押印した書類を郵便にて提出する方法です。

②は事務局より申込用紙を購入し、必要事項を記入、署名、押印のうえ、郵便にて提出する方法です。

※インターネットが利用できる環境の方は①をお勧めいたします

### 9. 「申込用紙」の販売

1部 600円で4月1日から下記事務局にて販売します。

申込用紙の郵送をご希望の場合は、事務局までお問合せください。

試験実施機関 103-0004 中央区東日本橋3-3-7 近江会館ビル8階 TEL 03-3662-8266

社団法人ランドスケープコンサルタンツ協会内

登録ランドスケープアーキテクト(RLA)資格制度総合管理委員会 事務局(土、日、祝祭日は休日です)

試験に関する詳細な情報は、ホームページ(<http://www.landscape-architect.org/>)でご覧になれます

# ランドスケープアーキテクトとは何か。 登録ランドスケープアーキテクト(RLA)自らが、資格認定試験の解説 を通し、ランドスケープアーキテクトとは何かを浮き彫りにした一冊。

## 第1章 ランドスケープアーキテクトとは？

ランドスケープアーキテクトへの誘い  
RLA制度創設の頃の思い  
ランドスケープアーキテクトという職能  
RLAの今後に向けて

### [事例]

伝統と現代の交差—朱雀の庭  
土地の記憶を生かす—きたまちしましま公園  
ワークショップと風景づくり—多摩平の森  
建築と緑の仕事—アクロス福岡  
21世紀の庭園デザイン—京都迎賓館  
自然環境の保全と再生—水元公園水産試験場跡地  
まちの背景をつくる—鎌倉市・緑の基本計画  
都市活動の演出—品川セントラルガーデン

### [コラム ランドスケープアーキテクトへの期待]

風景デザイン (建築家 栗生明)  
光の世界からRLAに期待すること (照明デザイナー 画出薫)  
「ランドスケープ」とは何か、「アーキテクト」とは何か (土木デザイナー 内藤廣)

## 第2章 RLA資格制度、資格認定試験

### 資格制度の性格と位置づけ

### 試験問題の内容【択一問題編】

択一問題の構成と範囲  
専門基礎、計画原論、自然的側面、  
歴史・文化・社会的側面、植物・植栽、  
ランドスケープ関連施設・材料、造成・排水

### 試験問題と解法【実技問題編】

実技問題の内容と視点  
出題範囲と勉強の仕方  
土地利用ダイヤグラム、敷地計画、  
造成・排水設計、植栽設計、詳細設計  
土地利用ダイヤグラム、敷地計画、  
造成・排水設計、植栽設計、詳細設計



本書の最大の特徴であるCD-ROMは、本編を凌ぐボリュームで、個々の択一問題の具体的な解説や実技問題の解法や複数の解答例を掲載し、より深く試験問題を理解できるようになっています。ぜひ、ご購入いただきこのCD-ROMをご覧ください。

※CD-ROMは、Windows専用となっていますが、Mac等をご使用の方には、別途、収録データをお送りする準備を整えております

### 〈編集後記〉

わが国の観測史上、経験したことの無い地震と津波、また、その後、引き起こされた原発の事故によって、私たちの自然観、生命観、価値観は大きく変わってしまったのではないのでしょうか。

われわれの祖先はこれまで、自然と折り合いをつけて生きてきました。しかし、科学技術の発達とともに、その自然との関係を「折り合いをつける(調和)」から「組み敷く(制圧)」に変えると同時に、豊かさを手にしてきま

した。

しかし、今回の震災では、そうした制圧・制御を際限なく繰り返してきた先にあったものが、明るいのだけではないことをまざまざと突き付けられました。

復旧・復興を目指す今、自然と折り合いをつけて生きていく術をもう一度認識し、まちづくり、環境づくり、国土づくりに活かしていくことが、われわれに求められていると考えます。

(〇)

2011 No.171

## CLA journal

再生紙を使用しています。

発行日●2011年5月25日

発行人●大塚守康

編集●社ランドスケープコンサルタンツ協会  
広報委員会

発行所●社ランドスケープコンサルタンツ協会  
〒103-0004 東京都中央区東日本橋3-3-7  
近江会館ビル  
TEL 03-3662-8266 FAX 03-3662-8268  
http://www.cla.or.jp



ホームページでもご覧いただけます。 <http://www.cla.or.jp>